



文部科学省・外務省後援

第9回 PDA 高校生パーラメンタリーディベート

世界交流大会 2024 報告書

一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：

2024年1月19日(金)、20日(土)

会場：

オンライン開催 (Zoom)

主催：	一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)
共催：	大阪公立大学
助成：	公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団、 一般財団法人 三菱みらい育成財団
後援：	文部科学省、外務省、朝日新聞社、朝日中高生新聞、 一般社団法人日本英語交流連盟

参加校とディベートチーム：13か国 26チーム (日本6チーム、海外20チーム)

日本	聖光学院高等学校
日本	浅野高等学校
日本	筑波大学附属駒場高等学校
日本	福井県立藤島高等学校
日本	神奈川県立相模原高等学校
日本	獨協中学高等学校
モロッコ	Morocco Debate Association ※
ネパール	Ripumardini Sainik Mahavidyalaya ※
カメルーン	Zemneh High School 2チーム ※
ウガンダ	Trinity College Nabbingo
ウガンダ	Code High School
ウガンダ	Debate Cranes

コロンビア	American School 2チーム
フィリピン	Caraga Regional Science High School
フィリピン	Xavier School San Juan
ルーマニア	CN Al Papiu Ilarian
ルーマニア	National College Andrei Saguna ※
ポーランド	Schools of Communications in Cracow 2チーム
タイ	Prince of Songkla University Demonstration School 2チーム
モンゴル	Hobby School of Ulaanbaatar
トリニダード・トバゴ	The Oxbridge International School
ジャマイカ	Hampton School

※=当日参加できなかったチーム

大会趣旨

昨今、グローバル化の加速により、多様な文化や考え方を理解し、グローバル社会で貢献できる人財の育成が求められています。

本大会では、パラメンタリーディベートを通して、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、コミュニケーション力など複数の力を発揮し、様々な国の人と同じ土俵で議論し、成長する機会を提供します。キーノートスピーチなど最新の講演も織り交ぜ、グローバルに活躍できる人財育成とすることを目的とします。ディベートという手法を通して効果的な国際交流を図るプログラムであります。また、スケジュールも国際会議、国際学会に似たものとし、高校生にとって、将来的にこのような世界の舞台に参加するイメージや各々の目標を持ってもらえれば幸甚です。なお、本大会では、文部科学省助成調査研究の結果を踏まえ、通常の授業でできる即興型英語ディベートのフォーマットを用います。そうすることにより、クラブの生徒に加え、一般の生徒も参加しやすい形態となっています。

論題（論題は、毎回ディベート開始 15 分前にはじめて発表されます）

予選 1 : Living in rural areas is better than living in urban areas.

都会で暮らすよりも田舎で暮らすほうが良い。

予選 2 : Zoos should be banned.

動物園を禁止すべきである。

予選 3 : Disaster-affected marginal villages should move to other cities rather than rebuild.

被災した限界集落では、復興よりも他市への移住をすべきである。

*A marginal village is a village with over half the residents over the age of 65.

*限界集落とは、村民の半分以上が 65 歳以上を占める集落のことである。

予選 4 : African countries should prioritize environmental protection over economic development.

アフリカの国々は、経済発展よりも環境保護を優先すべきである。

準決勝 : Politics is better done by AI than by humans.

政治は、人間が行うよりも、AI が行った方がよい。

決勝 : STEM education is more important than language education for high school students.

高校生にとって STEM 教育は語学教育よりも重要である。

キーノートスピーカー :

Somporn Chuai-Aree 氏

Assistant Professor, Prince of Songkla University, Thailand



参加校紹介写真



ルーマニア



ポーランド



ポーランド



モンゴル



ウガンダ



ウガンダ



ウガンダ



コロンビア



トリニダード・トバゴ



タイ



タイ



モロッコ



ジャマイカ



聖光学院高等学校



筑波大学附属駒場高等学校



福井県立藤島高等学校



神奈川県立相模原高等学校



獨協中学高等学校



浅野高等学校

1 日目（開会式、予選 3 ラウンド、文化交流、カルチャーナイト）

第 9 回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会が始まりました。開会式では PDA 代表理事の中川智皓から挨拶と各国のチーム紹介（13 ヶ国から 26 チーム、日本からは 6 チーム）がありました。その後ディベートのルール説明がありました。大会 1 日目は予選が 3 ラウンド、国際交流、カルチャーナイト（世界の国々の文化紹介）が行われました。開会式では、参加校の紹介動画を視聴し、一緒にディベートをする様々な国の仲間を確認しました。ルールの確認では POI（Point of Information：ディベート中の質疑応答）のポーズを練習し、相互理解を深める方法について確認しました。



PDA 代表理事 中川による挨拶

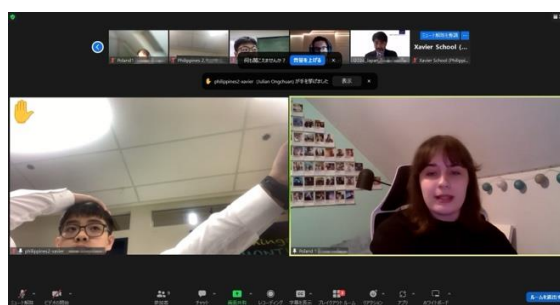


POI の練習

予選ラウンド 1 では、お互い緊張している様子も見られる中、POI を交わしながら議論を交わしました。田舎と都会のどちらに住むべきかという問いに対し、肯定チームが「田舎の方が安全だ」と主張し、否定チームが「都会の方がヘルスサービスは充実している」と主張し、白熱したテーブルもありました。他にも環境面や教育面など様々な観点から田舎と都会について議論が行われ、ディベートが終わると、自分たちの住んでいるところは田舎か都会かなど論題をきっかけに交流を深めました。その後、ジャッジの先生からフィードバックを受け、次のラウンドに向けた課題について話し合うチームもありました。



POI ! (タイ 2 VS コロンビア 2)



POI ! (ポーランド 1 VS フィリピン 2)



交流 (タイ 1 VS 聖光)



ジャッジコメント (獨協 VS ポーランド 2)

予選 2 は動物園を禁止すべきかどうかに関する論題でした。その後の交流で、「動物園がない」「動物園はあるけど行ったことがない」「動物園はないが、動物のいる自然公園ならある」など、バックグラウンドが異なることを知り、「そこには文化的な背景も関わっていると思う」など、論題やディベートを通して視野を広げる場面がありました。



ポーランド 2 VS ジャマイカ



POI! (藤島 VS トリニダード・トバゴ)



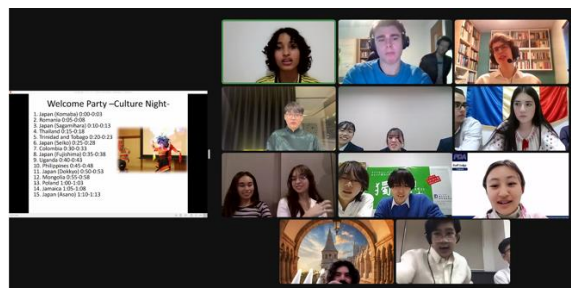
コロンビア VS ルーマニア 1



聖光 VS フィリピン 1



握手 (ポーランド 1 VS 相模原)

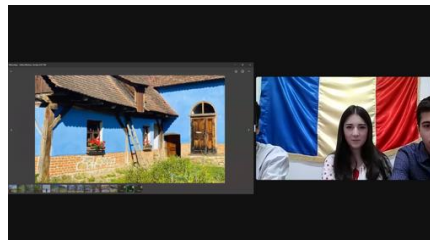


論題に関してディベート後に交流

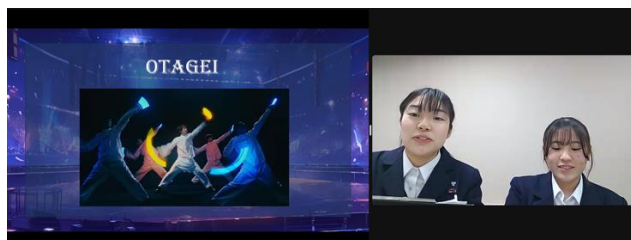
予選2ラウンド後には、各チームが自国の文化を紹介し、異文化理解を促進する「カルチャーナイト」が行われました。各国の食文化、サブカルチャー、自然などについて紹介が行われ、文化紹介を聞く参加者たちが、その演出や画像などに対する興奮する様子が画面越しに伝わりました。



筑波大学附属駒場高等学校



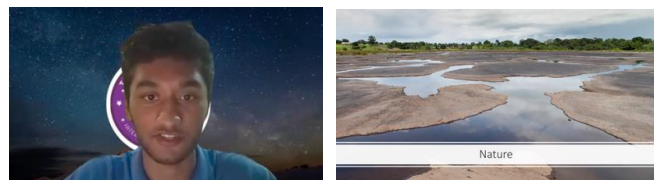
ルーマニア



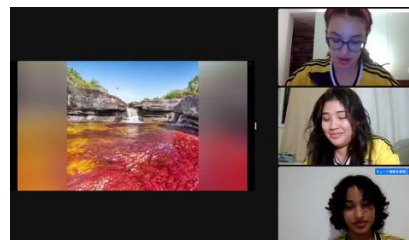
神奈川県立相模原校高等学校



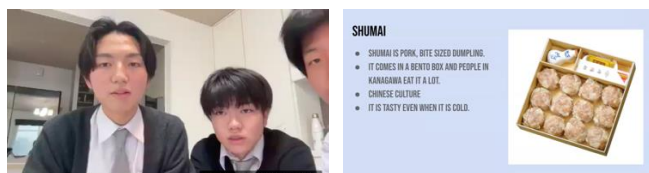
タイ



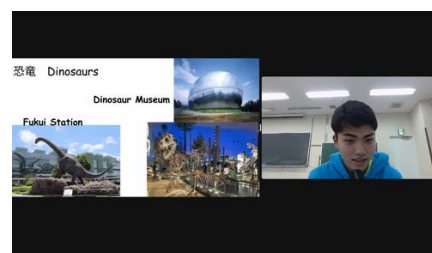
トリニダード・トバゴ



コロンビア



聖光学院高等学校



福井県立藤島高等学校



ウガンダ



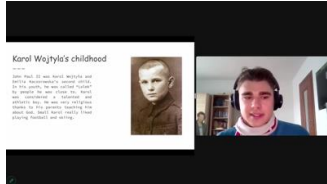
フィリピン



モンゴル



獨協中学高等学校



ポーランド



カルチャーナイト後、予選ラウンド3が行われました。令和6年能登半島地震で再び議論となっている限界集落の復興と移住について議論しました。被災後の復興資金の問題や再び災害に遭うリスクなど具体的な議論が行われました。海外のチームも「テレビやSNSなどでよく知っている」「自分たちが住むところは滅多に地震はないが他の災害ならある」などお互いの国の状況について詳しく知る機会となりました。



コロンビア2 VS モンゴル



ディベート後の交流（相模原 VS 浅野）



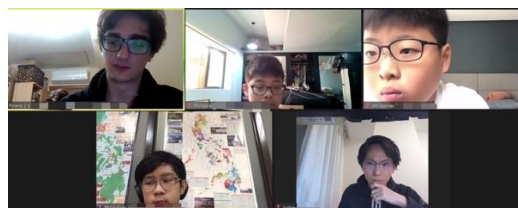
POI!（獨協 VS フィリピン1）

2日目（予選、準決勝、決勝、キーノートスピーチ、閉会式）

2日目は予選ラウンド4からスタートしました。論題は「アフリカの国々は経済発展よりも環境保護を優先すべきである。」でした。実際にアフリカのチームが参加している世界交流大会だからこそ、どのチームも課題を身近に感じたようで、非常に議論が盛り上がりました。当事国のチームからは自分たちが置かれている状況を含めながら、そのほかの国のチームも自らの持ちうる知識をフル稼働させながら、ディベートを展開していました。ディベート終了後も論題について議論を深める姿が見られ、国際問題に対する世界の高校生たちの関心を高める機会にもなりました。



モンゴル VS 藤島



フィリピン2 VS ポーランド2



トリニダード・トバゴ VS タイ2



浅野 VS 筑駒 ジャッジ: ルーマニア



タイ1 VS コロンビア2



握手（ジャマイカ VS コロンビア1）



フィリピン1 VS 相模原



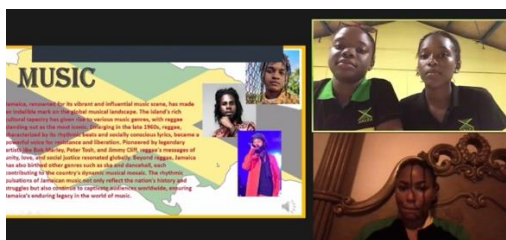
握手（ルーマニア1 VS 獨協）

予選最終戦の準備時間には、教員が交流する機会も設けられました。英語科の教員に加え、数学科などの教員も参加しました。各国の教育システムについて共有し、それぞれが授業の改善にも生かすことができるようなヒントを学ぶ機会となりました。

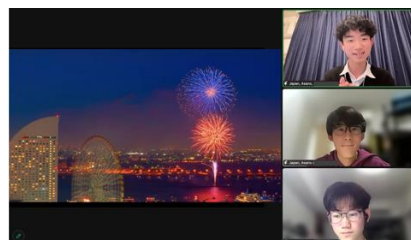


教員集合写真

2日目の昼休みは、昨日に引き続きカルチャーナイトを行いました。2日目には、ジャマイカと浅野高校がプレゼンテーションを行いました。ジャマイカの高校は有名な歌を歌い、非常に盛り上がりました。浅野高校は高校のある横浜を紹介しました。各地の名所や文化を学ぶ機会となりました。その後は、自由な交流の時間が設けられました。各国の生徒が他の国の生徒に対して、質問をしあうなど異文化交流を楽しんでいる姿が見られました。



ジャマイカ



浅野高等学校

そして休憩をはさみ、緊張のブレイクアナウンスメント（予選の結果発表）が行われ（結果は下記）、準決勝が始まりました。準決勝の論題は、「政治は、人間が行うよりも、AIが行った方がよい。」でした。準決勝と同時に、第5位から8位までのチームも準決勝と同じ論題で、Exchange ラウンドを行い、熱い議論を交わしました。



浅野 VS 筑駒



モンゴル VS 相模原

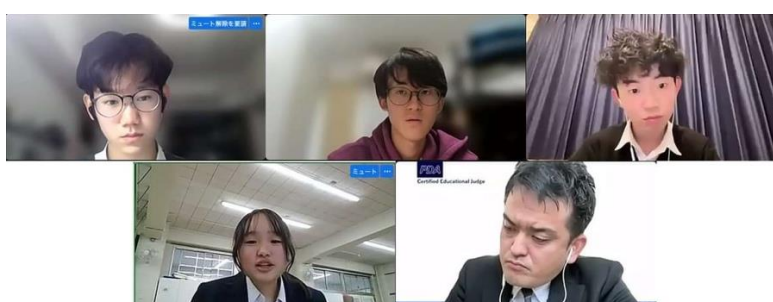
予選結果

Place	Team Name	Win	Sum	Institution
1st	Asano	4	164	Asano Senior High School
2nd	Sagamihara	3	168	Sagamihara Senior High School
3rd	Mongolia	3	156	Hobby School of Ulaanbaatar
4th	Komaba	3	154	Senior High School at Komaba, University of Tsukuba
5th	Uganda 1	3	153	Trinity College Nabbingo
6th	Romania 1	3	143	CN Al Papiu Ilarian
7th	Uganda 3	3	130	Debate Cranes
8th	Seiko	2	168	Seiko Gakuin High School
9th	Fujishima	2	163	Fukui Prefectural Fujishima High School
10th	Philippines 1	2	162	Caraga Regional Science High School
11th	Dokkyo	2	154	Dokkyo Senior High School
12th	Colombia 2	2	152	American School
13th	Colombia 1	2	151	American School
14th	Trinidad and Tobago	2	149	Trinidad and Tobago
15th	Philippines 2	1	149	Xavier School San Juan
16th	Thailand 1	1	148	Prince of Songkla University Demonstration School (Secondary)
17th	Thailand 2	1	147	Prince of Songkla University Demonstration School (Secondary)
18th	Poland 1	1	138	Zespół Szkół Łączności w Krakowie (Schools of Communications in Cracow)
19th	Jamaica	1	109	Hampton School
20th	Uganda 2	1	101	Code High School
21st	Poland 2	0	139	Zespół Szkół Łączności w Krakowie (Schools of Communications in Cracow)
-	Romania 2	-		National College Andrei Saguna
-	Cameroon 1	-		Zemneh High School
-	Cameroon 2	-		Zemneh High School B
-	Nepal	-		Ripumardini Sainik Mahavidyalaya
-	Morocco	-		Morocco Debate Association

白熱の準決勝が終了し、その結果浅野（予選1位）と相模原（予選2位）が決勝に進出しました。決勝戦の論題は「高校生にとってSTEM教育は語学教育よりも重要である。」でした。これに関連して、Dr. Somporn Chuai-Areeによるキーノートスピーチが行われました。プログラミングを容易にするソフトがSTEM教育の普及を支える旨お話いただきました。生徒が真剣に耳を傾ける様子も見られました。決勝戦では、高校卒業後の学ぶ機会や必要性など様々な観点から議論が交わされました。PDA認定教育ジャッジや海外の教員がジャッジを行い、浅野高校の優勝となりました。



キーノートの様子



決勝戦の様子

閉会式では、表彰が行われ、代表チームや生徒に対して Zoom のチャットで多くの賛辞が送られました。最後に、代表理事から総括があり、この大会参加への感謝と今後のエールが送られました。

今年度も引き続きオンライン開催となりましたが、大盛況のうちに世界交流大会は幕を閉じました。大会に参加された世界の高校生、引率の先生、キーノートスピーカーの皆様、この世界交流大会を助成、後援、応援くださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。

第9回 PDA 高校生パーラメンタリーディベート世界交流大会〔結果〕

チーム賞

優勝： 浅野高等学校

準優勝： 神奈川県立相模原高等学校

準決勝出場チーム： モンゴル、筑波大学附属駒場高等学校

個人賞

ベストディベーター賞

・ 4回

_____さん(浅野)

・ 3回

_____さん(筑駒)

_____さん(コロンビア 1)

_____さん(ウガンダ 3)

・ 2回

_____さん(獨協)

_____さん(獨協)

_____さん(藤島)

_____さん(モンゴル)

_____さん(ポーランド 1)

_____さん(コロンビア 2)

_____さん(ウガンダ 1)



ベストディベーター賞

POI 賞

・ 4 回

_____ さん(ルーマニア 1)

_____ さん(モンゴル)

_____ さん(コロンビア 2)

・ 3 回

_____ さん(聖光)

_____ さん(ジャマイカ)

_____ さん(タイ 1)

_____ さん(コロンビア 1)

_____ さん(ウガンダ 1)

・ 2 回

_____ さん(トリニダード・トバゴ)

_____ さん(相模原)

_____ さん(獨協)

_____ さん(ポーランド 1)

_____ さん(ウガンダ 2)



ベスト POI 賞

文化賞

ジャマイカ

フィリピン 2

獨協中学高等学校

タイ

第9回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会〔感想〕

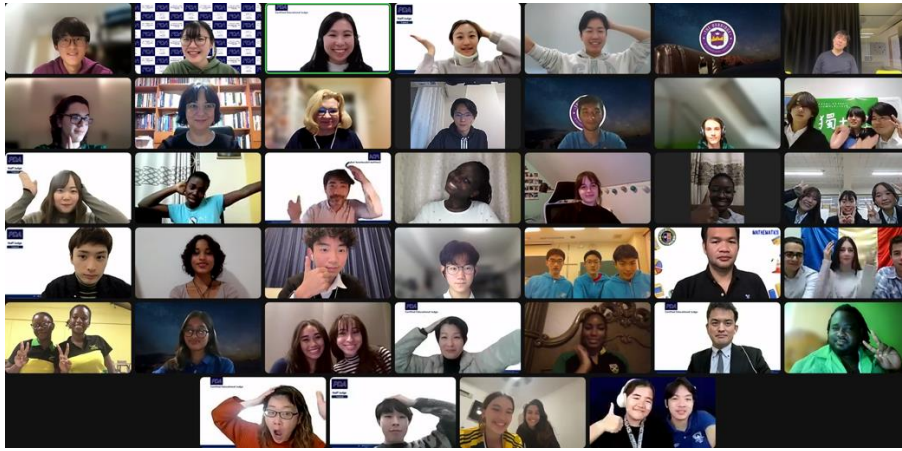
世界交流大会の感想（抜粋）

（生徒）

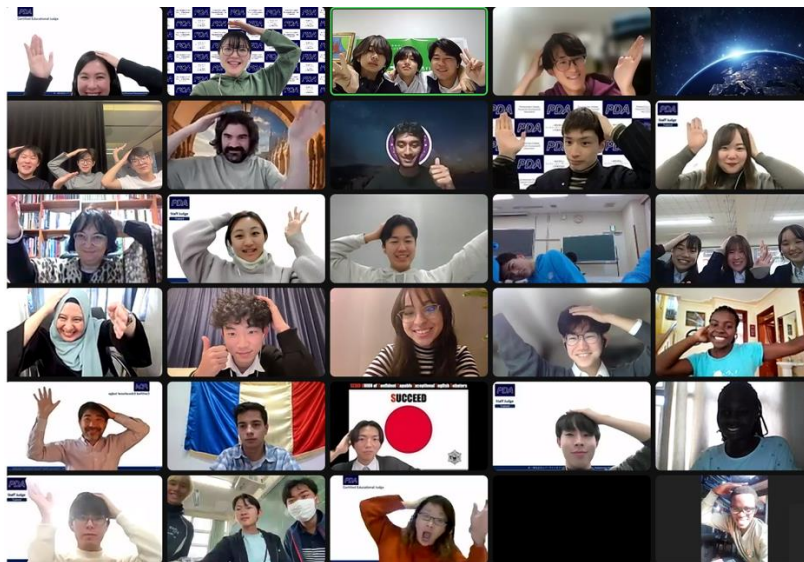
- 他の国の参加者と話す時間が本当に楽しかった。他の文化を知ることは素晴らしいことだと思いました。（ポーランド）
- ディベートが本当に楽しく、大会もとてもスムーズに運営されていました。（コロンビア）
- 他の国の参加者との交流は、とても学びがあり楽しかったです！（コロンビア）
- 海外の人々とディベートできる素晴らしい機会でした。（浅野、日本）
- このフォーマットでのディベートが楽しかったですし、お気に入りのフォーマットになりました。（ルーマニア）
- 3語で感想を言うと、「非常に・素晴らしい・経験」。（モンゴル）
- 海外の参加者とのディベートはとてもユニークで面白かったです。（聖光、日本）
- 世界中の人々と出会い、学びのあるディベートに参加できる素晴らしい機会でした。（トリニダード・トバゴ）
- 競争的でありながらも友好的な雰囲気、素晴らしい効率性、フレンドリーさに感謝しています。（ルーマニア）
- この大会に参加する前は、日常的に英語を話す人々とともにディベートすることができないと思っていました。しかし、勝つことができ、またたくさん交流することもできて楽しかったです。（相模原、日本）
- 国際的な高校生とコミュニケーションを楽しんで、文化を共有できて楽しかったです。（藤島、日本）
- みんながとてもフレンドリーで親切でした。新しい人々に会って、彼らの国について学ぶのは楽しかったです。本当に楽しい経験でした。（ウガンダ）
- この大会は新しい海外の高校生との出会いとなり、私の世界を広げました。（タイ）

（教員）

- スタッフの親切さと準備の行き届いた対応にはいつも感謝しています。特に、皆さんの熱意が私が最も尊敬するものです。それが実際に私を日々向上させる原動力となっています。皆さんは私の理想のモデルです！！
- 世界中のチームとのディベートを楽しむ良い機会となりました。
- この大会が大好きです。時差が14時間もあるにもかかわらず、私の生徒たちは興奮していました。



集合写真①



集合写真②